

文系の学生にクラウドサービス利用リテラシーを教育する試み

野村卓志

静岡文化芸術大学 文化政策学部

nomura@suac.ac.jp

概要： Webベースのクラウドサービスを使って、メールだけではなくスケジュールやタスクなどの管理が可能になってきた。また、学部学生の卒業研究に必要な情報の入手も、雑誌や新聞がインターネットへ移行したことに伴い、従来の書籍や文献に加えてソーシャルネットワークやオンラインブックマークを経由するものも増えてきた。これらインターネット上のクラウドサービスをパーソナルコンピューターや携帯端末を組み合わせることで利用することが、文科系の学部学生の情報リテラシーの一環として必要になると考え、その利用法の講義を試みている。Google の各種サービスや、はてな、Remember The Milk、Evernote 等のアカウントを取得させ、これらを組み合わせることで情報収集や要約、情報発信の演習を行わせる。本発表では、講義の構成と進捗状況、ならびに学生に対して行ったアンケート調査について報告する。

1 はじめに

情報リテラシー教育のカリキュラムとして、従来はWebブラウジングとメールの利用、ワードプロセッシングとレポート作成、表計算処理とデータベースの利用、Web2.0 機能の解説とHTMLおよびCSSを用いたページデザインの講義を行ってきた。近年、Webベースで提供されているクラウドサービスを使って、メールだけでなくスケジュールやタスクの管理が行えるようになってきた。卒業研究に必要な情報の入手も、雑誌や新聞がインターネットへ移行したことに伴い、従来の書籍や文献に加えてソーシャルネットワークやオンラインブックマークを経由するものも増えてきた。これらインターネット上のクラウドサービスを、パーソナルコンピューターや携帯端末を組み合わせることで利用することが、文科系の学部学生の情報リテラシーの一環として必要になると考えた。従来のHTMLとCSSを使ったページデザイン作成の講義内容から、Web上のクラウドサービスを利用した情報収集、発信の方法を解説し演習させることにより、現代のWeb利用の基礎となっているWeb2.0 の基本概念である集合知や、ソーシャルネットワークを通じた情報選別の機能を体験的に会得させるカリキュラムへ改変を試みている。本稿では新たに構成した講義の内容とあわせて、学生のクラウドサービス利用に関するアンケート調査について述べる。

2 情報リテラシー教育の従来のカリキュラム

著者が所属する静岡文化芸術大学の文化政策学部は、国際文化学科、文化政策学科、芸術文化

学科の3学科からなる、いわゆる文科系の4年生大学である。情報リテラシー科目のカリキュラムは2004年度に策定して講義を行ってきている。情報リテラシー教育においては、卒業後の社会人として、また大学生活において必須となる、コンピューターをはじめとする情報機器を使いこなすことのできる能力を身につけさせることを目的としている。これより、情報リテラシー関係の科目としては、情報そのものの取り扱いを学ぶ科目である「図書館学概論」「情報検索」「学術情報論」の3科目に加えて、情報機器関連のスキルを身につけるための科目として「情報処理基礎」「情報処理応用1」「情報処理応用2」「情報システム論」の4科目を設けている。「情報処理基礎」はWeb、メールなどのインターネット関連の利用法と、ワードプロセッサの利用法について解説し演習を行っている。「情報処理応用1」では画像や図形の取り扱いについて画素数、解像度などラスター図形に関する基本的な知識とトリミング、加工などの処理、さらにベクトル図形やベジェ曲線の扱い方を実習し、ワードプロセッサやWebで利用するためのファイル形式の変換についても実習を行っている。「情報処理応用2」では表計算ソフトウェアの利用法とデータベース的処理について解説している。表計算の持つ計算機能、グラフ作成機能等に加えて、統計やアンケート集計で必要となるデータベース的処理の基礎、抽出や集計機能についても実習を行っている。これに続く「情報システム論」では、インターネットにおいて最も広く利用されているウェブ技術について理解してもらうことを目的として、その規格制定の歴史やHTMLとCSSの詳細、

情報発信の基礎となるページデザインの構成に関する実習に加え、Web2.0的機能の解説を行っている。

以上、従来の情報関係のカリキュラムでは、ワードプロセッシング、デジタル画像の処理、表計算を用いた集計など、文系の学生に必要となるコンピュータの利用技法を身につけさせた上で、情報発信のためのWeb、HTML技術について解説している。

3 「情報システム論」の内容改訂

前節で述べた情報カリキュラムで2004年度から講義を行ってきた。この間、ワードプロセッシングや表計算などの基本技能の必要性や社会状況には大きな変化が見られない一方で、Webに関しては大きな変化が生じた。Webサイトの作成を専門に担当するもの以外はHTMLやCSSに直接触れる機会は少なくなり、ブログなどのサービスにおけるテンプレートを修正するのが主な利用場面となった。その一方で、Webを利用したブログサービスやソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）などを用いて、HTMLやCSSの技術的素養を持たなくとも情報発信することが容易になった。また、YouTube[1]、Ustream[2]やニコニコ動画[3]などの動画配信サイトで録画した番組や、ビデオを用いたライブ中継が可能になり、政治家の記者会見や製品発表会の中継に利用されるようになった。さらにTwitter[4]のようなストリームWebを介して、これらの中継番組の存在が広められるようになり、社会的なインパクトも大きくなりつつある。

また、クラウドコンピューティングシステムと携帯端末の普及により、身近なスケジュール管理、タスク管理もWebサービスを利用して効率よく行えるようになった。RSSリーダーを利用したWebの情報収集や、集めた情報の整理、さらに集合知に参加することとなる情報発信の意義も増しつつある。

このような状況の変化を受けて、学生にWeb技術を理解してもらうためには、単にHTMLとCSSを用いた情報発信の方法を教えるのではなく、Webサービスを使って情報を集め、整理して発信する方法を習得してもらう方が有意義であると考え、講義内容を改訂することにした。

4 クラウドサービスのリテラシー教育

Webサービスを利用するときには、現在はク

ラウドサービスが前提になり、単にパーソナルコンピュータ（以下PC）のWebブラウザ上でサービスを利用するのに留まらず、クラウドを利用して携帯端末と組み合わせて利用することが重要であると考えた。そこで、講義で取り上げるWebサービスはPCと携帯端末の両方で利用できる、データの同期などクラウドを利用するメリットがわかりやすいものを選んだ。また、単にこれらのサービスの使い方を講義するだけではなく、ネット社会におけるアイデンティティの表出や、集合知やソーシャル・ネットワークを通じた表現の社会的意義を理解させることも目的としている。

講義では、まずネットワーク上におけるアイデンティティについて学生に考えさせるために、実名、ペンネームと匿名の違いについて説明した。自分の意見を表明するときに実名を用いるのが原則の欧米とは異なり、個人の意見と個人が所属する組織の意見の分離が必ずしも明確ではない日本においては、従来は匿名で意見の表明が行われてきたことを説明した。次に、ソーシャル的な性質の強いクラウドサービスでは、プライバシーに属する個人情報や公開しないようにしつつ、サービスのアカウント名をペンネームとして用いて、個人のパーソナリティを表現するものであることを説明した。この点を理解させた上で、ペンネームとなるアカウント名とアカウント画像（アイコン）を決めさせ、各サービスの登録に使用させた。

利用サービスは、様々なサービスでアカウント登録するときになるメールにまず登録させる。サービスにはGoogle[5]のGmailを利用した。これを選んだ理由は、同一アカウントでそのままiGoogle、カレンダー、リーダー、SNSのGoogle+などのサービスが利用可能であることと、プロフィールのページが用意されていて、ネットワーク上にパーソナリティが表出されることを学生に視覚的に理解させるのに有用であると考えたためである。登録作業の後にGmailの利用方法を解説し、メールの未読/既読や分類などの状態、登録した宛先情報がクラウドサービスに登録され、他のPCや携帯端末に同期されることを解説した。また、iGoogleに天気予報や時計などのウィジェット（画面内に情報を表示するパネルをこう呼ぶ）に加えて、Gmailのウィジェットを配置し、iGoogleをブラウザのホームページに設定することにより、利用するどの端末でも必要な情報を一覧できることを示した。本講義

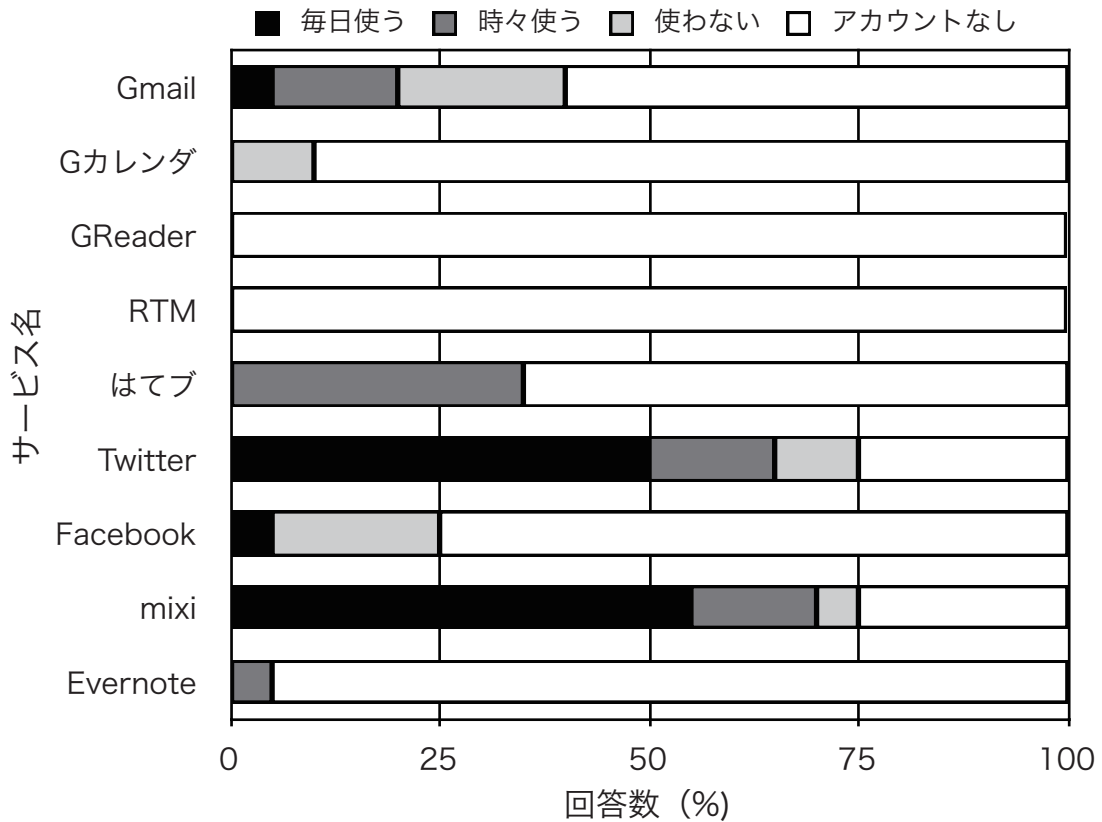


Fig. 1 利用しているWebサービスのアンケート結果

サービス名のGカレンダー、GReader、RTM、はてブはそれぞれ Google Calendar, Google Reader, Remember The Milk, はてなブックマークを示す。

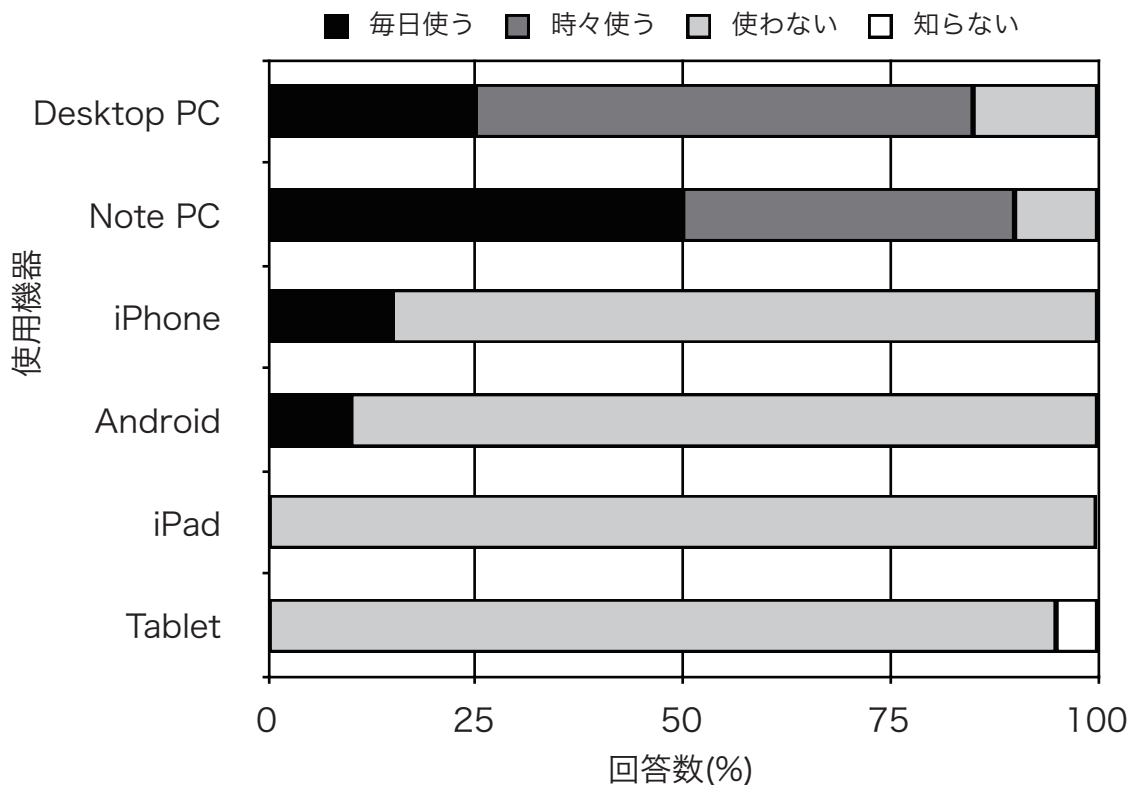


Fig. 2 利用している機器のアンケート結果

は今年度に初めて試みるものであり、講義はここまで進んでいる。

今後の講義予定では、続いてGoogleカレンダーと、タスク管理の Remember The Milk[6]の利用法を解説し、GTD (getting things done) [7]の手法とあわせてスケジュール管理の方法を解説する。次に、ブログシステムの動作とRSS (rich site summary) について説明したあと、ロボット型検索エンジンにRSSが有効であることを示した上で、RSSリーダーの例としてGoogleリーダーを用い、ネット上の新聞・雑誌・ブログ等のサイト上の情報を効率よく読む方法について解説する。さらに、オンラインブックマークである はてなブックマーク[8]と、個人向けの情報蓄積サービスである Evernote[9]の両サービスを利用して、見つけた情報を分類し蓄える方法について解説する。これらの実習と並行して HTML、CSSの歴史や仕組み、Web2.0の基本となっている集合知や進歩的性善説の考え方を説明しつつ、従来はマスメディアが行っていた情報選別の機能を、集合知を通してインターネットも持ちつつあることを示す。各個人が、Google の「+1」や、Facebook[10]の「いいね！」を利用することが集合知に参加することであることを示した上で、Google+ や ツイッター などの SNS 的サービスを利用させ、インターネット環境における集合知と情報選別の機能について理解してもらうつもりである。

成績評価のために課題を課すが、単に文書形式のレポートを課すだけではなく、テーマを設定してはてなブックマークにブックマークさせたり、Google+で講義用の非公開サークルを設けて、課題を提出させる演習などを計画している。

5 サービス・機器利用のアンケート

講義を行う前に、本講義で取り上げる予定のWebサービスや機器を、履修する学生が既にどの程度利用しているかを調査するアンケートを行った。履修した学生の人数は20名である。サービスに関する集計結果を Fig. 1 に、使用機器に関する結果を Fig. 2 に示す。Twitter と mixi[11]の利用率は高く、70%程度が利用すると回答した。Gmail を使う学生が20%、はてなブックマークを使う学生が35%であるが、それ以外のサービスを利用する学生は数%程度であった。アカウントを持たないと回答した学生が多いことから、これらのサービスに対する関心は低いと考え

られる。Fig. 2 の利用機器の結果を見ると、利用している機器はデスクトップまたはノート型のPCが主であり、iPhone、Android等のスマートフォンを利用する学生が数%、パッド型デバイスを利用する学生は0であった。この結果は、従来型のいわゆるガラパゴスケータイで利用可能なTwitter および mixi の利用率が高いことに対応していると思われる。以上のように、Webサービス利用に関して学生の利用率は高いとはいえ、講義でこれらの利用法を解説するリテラシー教育には意義があると考えられる。

6 おわりに

情報リテラシー教育のカリキュラムにおいて、従来行ってきたWeb技術の解説、HTMLとCSSを用いたページ作成とWeb2.0の位置づけの講義を改訂し、様々なクラウドサービスを演習に利用することにより、現代のインターネット利用の基本となっている Web2.0 の基礎を成す集合知やソーシャル・ネットワークによる情報選別の機能を体験的に会得させる講義を試みている。従来のワードプロセッシング、表計算等の情報リテラシーに加えて、クラウドサービス利用も新たな情報リテラシー教育の対象となりうると考えている。

参考文献

- [1] "YouTube", <http://www.youtube.com/>
- [2] "Ustream", <http://www.ustream.tv/>
- [3] "ニコニコ動画", <http://www.nicovideo.jp/>
- [4] "Twitter", <http://twitter.com/>
- [5] "Google", <http://www.google.co.jp/>
- [6] "Remember The Milk", <http://www.rememberthemilk.com>
- [7] デビッド・アレン、仕事を成し遂げる技術—ストレスなく生産性を発揮する方法」、はまの出版、2001
- [8] "はてなブックマーク", <http://b.hatena.ne.jp/>
- [9] "Evernote", <http://www.evernote.com/>
- [10] "Facebook", <http://www.facebook.com/>
- [11] "mixi", <http://mixi.jp/>